

ならぬ次第である。

合同の必要は今日益々急にして政府の任命せる特別調査委員會は主要なる各工場間の經濟的協力を促して居る、而して日本の鋼鐵トラストを云々する位の程度迄話が進んで來て居る、但し此際國家が財政上の援助を與ふ可きや否やに就ては目下熟慮中に屬するものゝ如くである。

製鐵事業の擴張に對する内地の原料に就て云へば既に世人の知れる如く頗る多量の石炭を産出するものなるが此の石炭は全く只其の一部のみが工業用に供せらるゝものであつて、海外から輸入する量殊に支那から供給せらるゝ量は年と共に益々増加して居る、而して日本が實際に困難を感じて居るものは鑛量の豊富ならざる事である、即ち日本の鐵山としては唯其の少數のものゝのみが而かも謙遜的に鑛石を供給して居る、鐵鑛石に於ても亦支那が日本に對する最も重要なる供給者である。

現在の狀態から察するに日本は將來ヒリッピンに於ける豊富なる鐵鑛に着眼するに至るであらう、其の埋藏鑛量は專家の意見に依れば五億噸以上に達する見込である。

近頃問題になつて居る火山岩系の砂鐵は日本に於て昔から鋼の製造に利用されたものであるが、之を原料とする製鐵法が成功せる曉に於ては日本は外國の鋼の御厄介にならずに濟むものであると云ふ望を以て一九二〇年の秋以來砂鐵製煉の研究を始めて居るが、今日に於ては最早好結果を收むるに至りしことであらう、然し砂鐵製煉なるものが經濟上に於ても亦満足すべき結果を得たるや否やに關しては今日未だ其の消息に接して居らぬ。

## 加奈陀に於ける鐵鋼業狀況

(大正十年十一月十二日、在オタ)  
マ帝國總領事清水精三郎報告)

鐵鋼業の一般狀況 鐵鋼業は加奈陀に於て比較的新なる工業なるも其發達の程度甚だ迅速にして一九一四年には世界に於て鐵鋼產出國中第八位を占め全國の鑛鑪二十二基、毎日の生産能力四千四百四十噸と稱せられたり。

現時最も著名なる會社はノバスコシヤ州シドニー市のドミニオン鐵鋼會社、同州ニュー・グラスゴー市のノバスコシヤ製鋼會社、オンタリオ州スー・サン・メリー市のアルゴマ製鋼會社及同州ハミルトン市の加奈陀製鋼會社にして是等の會社は自家製造の銑鐵より鋼鐵精製品を製造するものにして其他五、六の小會社は單に銑鐵のみを製造す。

一九二〇年鐵鋼業の趨勢を見るに同年末に至る迄價格竝に需要共に益々昂騰の勢を示せり、此の傾向は一般市場に襲來せる不況の影響が年末に近づき漸く顯著なるに至りて始めて其進行を阻止せられ價格低落の方向に傾けるを見る。

一九二〇年の初頭に當りては世界全般に互りて鐵鋼の需要強大にして加奈陀の生産能力は其極限迄驅使せられ鐵道罷業に依る貨物の停滯、石炭罷業に基く石炭の缺乏、勞働爭議等各種の困難ありたるに拘らず、只管生産増加に努めたり、物價騰貴の勢に伴ひ鐵鋼の價格亦自然引上げられたるに拘らず、歐洲其他の需要は内國の需要と相待ち驚くべき、消費力を示し以て戰時中鐵鋼に對する通常の需要が如何に壓迫せられ居りしかを示せり。

(以上)

一九二〇年加奈陀の鐵鋼生産額は前年度に比し少からず増加せりと稱せらるゝも尙關稅統計は依然として巨額の輸入を示しつゝあり固より低率なる輸入稅、廣汎なる無稅項目表が其輸入を促進しつゝあるや疑なし。

加奈陀製鋼會社の副支配人マクマスターの陳述に依れば諸物價騰貴の期間特に昨年度を通じ製鋼業者は價格の異常なる昂騰が、製鋼業の着實なる發展を助成する所以にあらざるを慮り、世界各地よりの註文當大陸に殺到せるに拘らず、鋼價を掣肘して其生産費との比較上他の一般商品よりは遙に低利控目なる程度に止めしめたり、右の結果反動期に際會せる今日他の商品に比し鐵鋼は遙に容易に且つ迅速に市場の狀況に適應することを得べしと。

當國鐵鋼生産額の約三十パーセントは鐵道に供給せらるゝものにして、即ち軌道及附屬的設備、車輛用鋼材等なり。

次に重要な用途は建築材料として使用せらるゝものとす故に最近の建築費低下の傾向は亦將來鋼材の消費促進の一因たるべしと見做さる。

一九二〇年度末に於て鋼材の在庫高甚だ僅少なりしことは世人の知る處にして生産せられたる鋼材は直に消費に廻さるる状態なりしを以て、是亦將來鋼材需要が比較的速に回復すべき一因と認めらる。

更に一九二一年度の生産狀況を見るに六月三十日に終る半ヶ年間加奈陀の銑鐵生産高三〇九、二〇六英噸（長噸）にして一九二〇年度の同期間生産高四四九、八一〇英噸に比し多大の減少なり、又一九二一年六月三十日に終る半ヶ年間鋼生産高約二九五、〇〇〇英噸にして昨年同期間の生産高は五四七

〇〇〇英噸なり。

鋼の生産方法を見るに其の大部分は鹽基性平爐法に依るものにして即ち一九二一年度半ヶ年間生産高中之に屬するもの二八二、六八四噸、電氣製鋼一〇、九三八噸、酸性平爐鋼四九五噸、轉爐一、〇五九噸なり、（以上皆長噸）なり。

重要工場に使用する原料の價格勞働賃率等に關する狀況

（イ）鐵鑛の價格　ドミニオン鐵鋼會社及ノバスコシヤ製鋼會社は共にニュー・ファウンドランドに其鐵鑛山を有し之より採掘せる鐵鑛を使用するを以て其價格を算定し難し、其他の會社は米國より鐵鑛を輸入するもの多し。

一九一九年度に於てニュー・ファウンドランドより移入せられたる鐵鑛六二九、二二二米噸（短噸）にして米國よりの輸入鐵鑛一、二五三、八六六米噸なり。

右統計表に基き算出する時は米鐵鑛の價格一噸約三弗六十六仙にしてニュー・ファウンドランド鐵鑛約八十九仙なり。

又一九二一年八月の貿易月報より算出するときは米鐵鑛一噸三弗二十仙にしてニュー・ファウンドランド鐵鑛一弗三十四仙なり。

然れども之を以て鐵鑛實際の市價と思はゞ大なる誤なり。

前述の如くドミニオン及ノバスコシヤ二會社は自己の鐵鑛を用ふるものにして其の價格は便宜關稅省に申告するものたるに止まり、市價と關係なく關稅省も亦鐵鑛が輸入に關し無稅に屬する關係上敢て其價格に關し追求することなき由なり。

米國鐵鑛は購買輸入せらるゝものなるも、是亦前述の如く鐵鋼は無稅に屬する關係上便宜價格を申告し置き迅速に鐵鑛

の引渡を履行する事情より關稅統計に表はるゝ價格は實際の市價と甚しき逕庭を生じつゝあり。

抑々加奈陀に於ける鐵鑛の市價は米國市場の價格に依て事實上支配せらるゝ、而して米國鐵鑛の八十パーセントはシウペリオル湖畔より産出せられ、是等はイリー湖畔の諸港に於て引渡さるゝを常例とし、其價格竝に運賃は各期節の當初に於て決定せらるゝものにして各箇の鐵鑛の價格は一定の標準に準據し其含有する自然鐵及燐の多寡如何に依り算出決定せらるゝものとす、而して標準として示さるゝ鐵鑛價格表に依れば一九二〇年度の鐵鑛の價格は一噸六弗五十五仙乃至七弗四十五仙にして右が寧ろ實際の鐵鑛市價に近きことはハミルトン市の一會社が一九二〇年度に於て米國より輸入せる鐵鑛の價格が平均一噸八弗に達したりと云ふ事實に徴し首肯することを得べし、(統計局クック氏の談話に依る。)

(ロ)石炭及骸炭の價格 ドミニオン、ノバスコシヤ兩會社は自己の炭山を有し、之より採掘せる石炭を使用し、又自ら骸炭を製造するを以て、其價格を明かにするに由なく、(會社も亦之を發表するを喜ばず)アルゴマ其他の會社は米國より石炭を輸入するも自ら骸炭を製造使用するもの多く其他夫々の價格を確定すること困難なり。

一九二一年八月の輸入統計より算出するときは石炭の價格は一噸約四弗八仙にして、骸炭の價格は一噸六弗八十七仙となるも鐵鑛の場合と均しく其の實際の市價と甚しき差異あるに注意せざるべからず。

(ハ)勞銀能率等に關する狀況 勞銀と云ふも勞働の種類に依り大差あり、各會社は統計局より再三の照會あるも迅速な

る返答を與へざる由にて、漸く數日前僅に勞働省よりアルゴマ製鋼會社の一九二〇年度に支拂ひたる勞銀の大體を聞くことを得たるが毎日十二時間一週七日勞働するを普通とする由にて勞銀一時間四十二仙乃至五十八仙なり。

平和後時局對應策として同業者間に講究實施せられたる方法及實績 戰時中盛に砲彈を製造したる大會社が平和後直に之が製造機械を取崩し軌道、建築、橋梁等の材料製作に全力を注ぎたることはドミニオン、ノバスコシヤ二會社に就き聞き得たる處にして他會社も同様なるべしと思考せらるゝが一九二〇年末以來事業漸々沈衰に傾き工場の一部を閉鎖し居るもの多き實況なり。

輸出入狀況 輸出入狀況に就ては一九一六年乃至一九二〇年の鐵及其製作品の輸出入總額左表の通なり。

鐵及鐵製作品の輸出入額

年 度	輸 出 額	輸 入 額
一九一六年	六六、一二七、〇九九	九二、〇六五、八九五
一九一七年	六三、三一〇、〇六三	一五三、二五一、三七九
一九一八年	六四、八三七、二二三	一九五、二四八、七二三
一九一九年	八一、九一〇、九二六	一九二、五二七、三七七
一九二〇年	八一、七八五、八二九	一八六、三一九、八七六

銑鐵及鋼材の在庫高 一九二〇年度鋼材在庫高の甚だ僅少なりしことは新聞に報道せられたる處なるが其數字に至りては八方手を盡したるも之を入手するを得ず、銑鐵在庫高も亦不明なり。

各會社は其賣渡高在庫高等商機に關係を及ぼすが如き情報を發表するを喜ばざるものゝ如く、統計局より再三の問合に對し満足に返答を爲さざる由なり。

(完)